ちょっと気になる
あの子へのアプローチ

保育園・幼稚園の先生のための
巡回相談　Q&A



はじめに

神奈川県立中井やまゆり園／神奈川県発達障害支援センター
園長　大矢雅之

発達障害の支援では、子どもの特性に合わせた対応や環境調整により発達を促すことと共に、幼児期から自己肯定感や自信を育てることが重要であると言われています。そして、そうした考え方や方法は、障害の有無に関わらず、全ての子ども達の保育・支援にも共通して有効性を発揮するものです。

神奈川県発達障害支援センターでは、平成20年度から市町村の専門スタッフと共に保育園・幼稚園を巡回し、現場からの相談に応えています。その中で、発達障害の児童に対する配慮が「ちょっと気になる子」へも有効であることが、関係者の中で強く意識されるようになってきました。そして、ご縁のあった平塚市、鎌倉市、藤沢市、大和市から、これまでの助言を何らかの形にして広めたいとの声があがり、当センターを含めた五者協働により本冊子を作成する運びとなりました。

この冊子の中では、実際に先生方から受ける質問を元に、Q＆A形式で子どもの見方や対応の考え方を紹介しています。現場での日々の悩みが凝縮されていますので、現実に直結するヒント集となっています。保育園・幼稚園の先生方が子ども達の支援に悩んだ時、この冊子を開いてもらえば、きっと何かの手がかりを得ることができるはずです。是非とも多くの皆様に活用いただき、良い保育・支援の一助になればと切に願っています。



【保育園・幼稚園巡回相談とは】

保育園及び幼稚園に在籍する子どもについて、療育や相談に携わる保育士や心理士等の専門職が訪問相談を行う事業です。神奈川県内の多くの市町村が実施しており、対応のヒントや専門的な視点が得られる機会として定着しつつあります。当センターも、発達障害の早期支援の観点から、要請のあった自治体へ技術的な支援を行っています。

平成26年3月

目　次

はじめに・・・

＊第2章　Q＆A　質問一覧

1　遊びについて・・・

巡回相談の意義と目的



和泉短期大学　児童福祉学科　専任講師　　河合高鋭

障がいのあるお子さんの早期支援は、2005年に制定された発達障害者支援法や2007年に改正された学校教育法において国及び地方公共団体の責務であると明示されています。さらに2012年に文部科学省から「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」の報告がありました。支援の必要な児童生徒が全体の6．5％在籍しているという数字は、就学前の保育園や幼稚園でもかなり大きな影響を受けています。それにより相談支援の体制づくりが進められるようになり、外部の専門家による巡回相談が広く手がけられています。

巡回相談は、子どもが安心して園生活を送ることが何よりの目的です。保育者やまわりの大人から見た“気になる子ども”たちの支援が中心になります。保育者は、普段行われている保育プログラムについての専門家であり、今までの子どもの関わり方で難しい場合や困ったときに巡回相談が役立つでしょう。巡回相談は支援を必要とする子どもだけではなく、その他の子どもたちにとっても有益なものとなります。

保育者は子どもの専門家です。保育園や幼稚園では、3歳児クラスならば20人～30人を一人もしくは二人の保育者で見ることが多いです。そのように大勢の子どもを一斉に見る仕事は他にはありません。この専門性は、誰もが簡単に真似ができるものでもありません。巡回相談員との対等な関係の中で、互いの専門的な視点から子どもの支援について話し合う場として巡回相談が活用できるのであれば、このような素晴らしいことはありません。保護者、保育者、巡回相談者のどの立場であっても子ども理解、障害理解が一番大切であり、乳幼児期だけではなくどのライフステージにおいても、そのことは大切だと言われています。

この冊子では、子どもを特性により大きく4つのタイプに分けて説明をしています。その内容は、発達障害の子どもから少し配慮が必要な子どもまで様々に対応しています。どうしても病気や障がいというと、「障害かそうでないか」「診断名はつくのか」ということが注目されがちですが、「発達障害」とわかったら支援する、配慮するというのはおかしな話です。私たちができることは、その子どもが何に困っているのかを感じ判断することだと思います。発達障害などの記事も入っていますが、もとより子どもをそういった枠で決めつけたりレッテルを貼ることを目的としたものではありません。私たち子どもに関わるものが普段の保育の中で、なんだか気になると思った時、なんだか難しいなと感じた時、どう考えても解決できない時の参考になり、また相談できるきっかけとなれば幸いです。

第１章　タイプ別紹介



この冊子では、まず「クラスにこんな子いる！」という４人の子どものタイプについて紹介し、よくある質問を通して、それぞれタイプ別に「困った行動」への対応例を紹介しています。

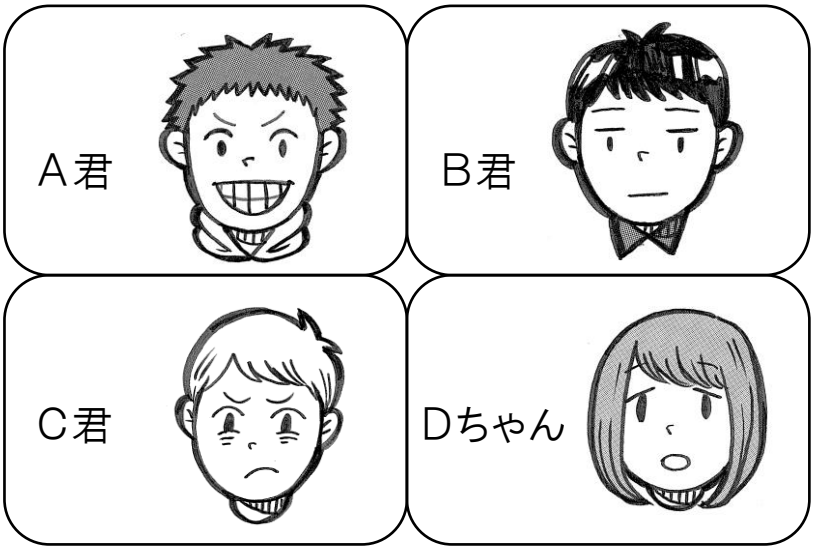
1. Ａ君は、「落ち着きがなく、思いつくとすぐに行動し、注意が移りやすい」子
2. Ｂ君は、「周囲の状況や人への理解や関心が乏しい」子
3. Ｃ君は、「感覚や体の動きに独特さがある」子
4. Ｄちゃんは、「全体的に発達がゆっくり」な子

この後のページには、Ａ君、Ｂ君･･･それぞれ具体的なエピソードが書いてありますが、こうした特性をもつ子は障害児であるということでは決してありません。また、共通するタイプの子に全く同じエピソードがあるということでもありません。そして、その後のＱ＆Ａで紹介している対応方法が必ず正解ということでもありません。

タイプ別の対応例を通して、**同じ「困った行動」も特性によって理由は異なり、理由によって対応は異なる、といった「特性に合わせた対応の考え方」を紹介したい**、と考えています。

詳しくはＰ３１を参照ください。

「どうすればいいの！」と先生方が対応に困った時、実はその子ども達自身が一番困っていて、「子どもが何に困っているのか」を考える視点は、きっと先生方のクラスのお子さんへの関わり方のヒントにもつながることと思います。さあ、一緒に考えていきましょう。



1　落ち着きがなく、思いつくとすぐに行動し、注意が移りやすい　A君

小さい頃は・・・
とにかく活発で、特に2歳くらいまでは、いつも走り回っていました。

足をブラブラさせたり、体をゆすったり、いつもどこか動いている



姿勢が悪く、座っていると椅子からずり落ちる

一人でパーっとどこかへ行ってしまい、迷子になりやすい

課題の時、先生の説明が終わる前に、やり始めてしまう

自由遊びの時、お友達が使っている玩具を取ってしまう

人が話している途中で、自分の言いたいことを話しだしてしまう

A君ってこんな子？？

やりたいことが頭に浮かぶと、気持ちをコントロールすることが苦手です。

良くないことはわかっていても、勝手に体が動いてしまうので、何度も同じことを繰り返してしまいます。

体がムズムズして、じっとしていることが苦痛です。

いろいろなものに気が向いてしまうのも、自分では止めようがないのです。

Q1　落ち着きがなく、いつも体を動かしています。

A　きちんとさせようと思わず、ちょっとの頑張りを認める

動きたくて体がウズウズしてしまうのが特性なので、例えば足をパタパタ動かしていても、「椅子に座る」というルールが守れているなら、「頑張ってちゃんと座っているね」と、ほめてあげると良いでしょう。

また、体を思いきり動かした後だと、少し落ち着きやすいかもしれません。

Q2　何度注意をされても、同じことを繰り返します。

A　約束を思い出すような声かけ、守れた時にほめる

悪気はないのに、その時になると注意や約束が頭から抜けてしまい、同じことを繰り返してしまうので、注意ばかりされていると自信がなくなったり、否定された怒りだけが強くなってしまいます。

「順番だったよね」等、約束を思い出せるように声をかけ、少しでも守れた時にはたくさんほめると良いでしょう。

Q3　片付けの途中に、別の遊びを始めてしまいます。

A　すべきことを伝え、出来た時にほめる

片付けている途中で、手にした玩具を見たら遊びだしてしまう等、見えたもの、聞こえたものが気になってしまうのが特性です。

注意がそれたことを指摘するのではなく、「お片付けできたかな」「お片付けが終わったらお昼ご飯だよ」等、すべきことを思い出させ、それをやる気持ちになるような声かけが望ましいでしょう。

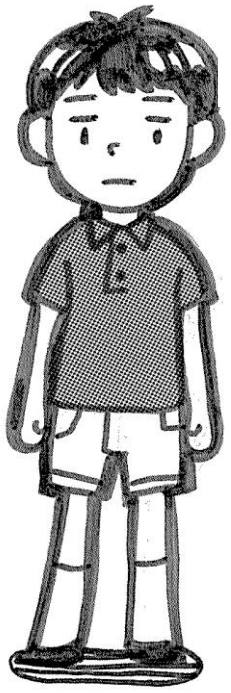




2 周囲の状況や人への理解や関心が乏しい B君

小さい頃は･･･
喜怒哀楽があまり見られない、一人遊びの多い子でした。

言葉は話せるのに、会話のやりとりがチグハグ



車や時計が好きで、玄関の時計を何度も見に行ったり、車種をいくつも知っている

園では、集団活動のリズムダンスをしないのに、家では覚えていて、その通りやる

行事や新しい活動等、いつもと違う状況を嫌がり、参加を拒否する

先生が聞いたことに答えず、自分の言いたい車の名前ばかり一方的に話す

雨が降って行き先が変わると大泣きする等、急な予定変更を受け入れられない

B君ってこんな子？？

想像することが苦手なため、相手の気持ちや状況を読みとることが得意ではありません。自分の世界があり、好きなように行動しているように見えますが、実は状況や指示が理解できていない、ということもあります。

言葉についても、お話をしてくれるのでわかっているように見えて、実際にはわかっていないことも多く、耳で聞くより、目で見て理解することの方が得意です。

特定のものへの興味がとても強い部分もあります。

Q1　時計へのこだわりがあり、玄関前の時計を一日に何度も見に行きます。

A　見に行くルールを決める

こだわってしまうこと自体を止める必要はありませんが、際限なくやるのでなく、見に行って良い時間や回数等、ルールを決めることが良いでしょう。いつ見に行けるのか、の見通しがつくと、その時まで待てるかもしれません。

Q2　自由遊び、自由画になると何も取り組みません。

A　具体的にやることを提示する

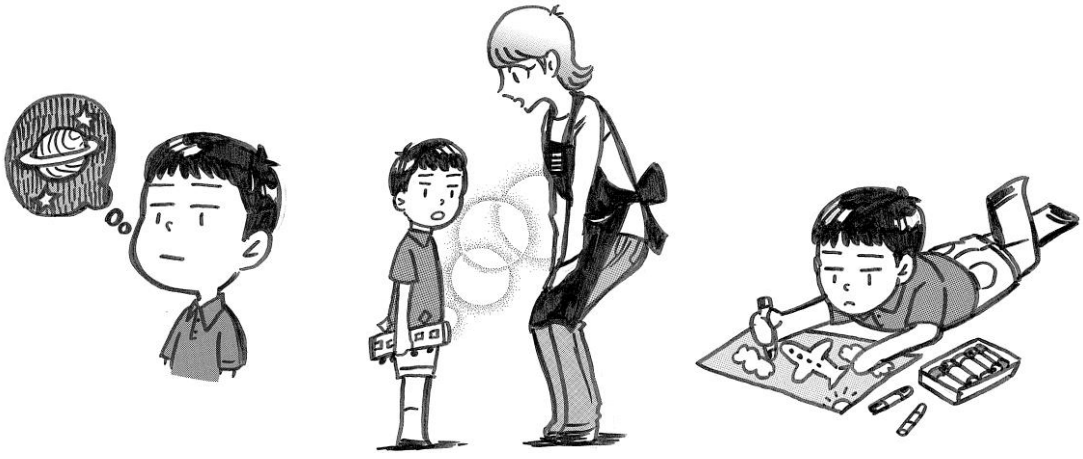
自由に想像し展開させていくことが苦手なので、「自由」だと何をしていいかわからなくなってしまうのかもしれません。自発性を伸ばしたいとしても、本人には逆に負担だと思われます。お手本を見せる、選択させる等、少し具体的なテーマややり方を示してあげた方が良いでしょう。

Q3　思っていることと違うことが起きると、拒否したりパニックになったりします。

A　起こりうる予定外のことも、あらかじめ伝えておく

想像することが苦手なため、予期せぬことへの混乱が大きいので、「もしも雨が降ったらお部屋に戻るよ」等、事前に起こりうるイレギュラーなことを伝えておくと良いでしょう。

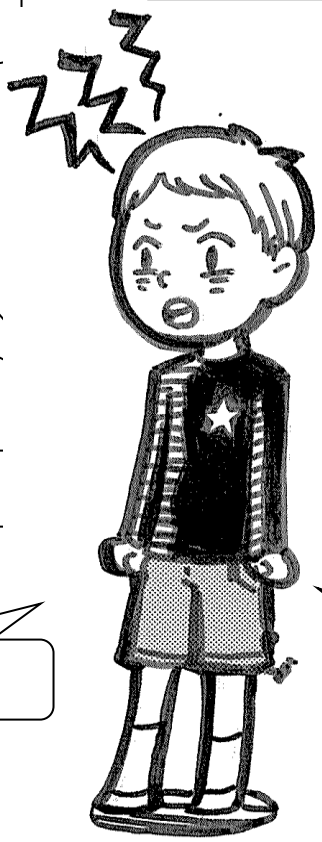
実際に拒否する状況になってしまったら、まず「残念だったね」と気持ちに共感し、「教室に戻って車で遊ぼう」等、その後の見通しを伝え、気持ちを転換させるようにしましょう。パニックが大きい時は、少し落ち着くまで待った方がいいかもしれません。



３ 感覚や体の動きに独特さがある Ｃ君

小さい頃は・・・
夜泣きがひどく、少しの物音ですぐ泣き、抱っこが嫌いな子でした。

偏食が著しく、食べられるものが少ない



くるくる回ったり、つま先歩きをする

掃除機の音や赤ちゃんの泣き声、大勢の人ごみ等に、耳をふさぐ

粘土や泥をいじるのを嫌がる

きちんとした姿勢を保てない

濡れたり汚れたりすることを嫌がる

物や人によくぶつかる

Ｃ君ってこんな子？？

味、温度、匂い、感触等の感覚に敏感なところがあり、普通は気にならないような刺激を不快に感じてしまいます。嫌な感覚は、慣れれば大丈夫というものではありませんが、気持ちが安定していたり、興味がある活動の中では、受け入れられることもあります。

様々な刺激の感じ方が独特なので、くるくる回るような動きを好んだり、また自分の体がどうなっているのかわかりづらいため、動きがぎこちなかったり、不自然な姿勢を取ることがあります。力の入れ方の調節も苦手です。

Q1　一人でずっとくるくる回っています。止めた方が良いですか。

A　場や状況が許せば、好きにさせてよい

くるくる回ることが、とても心地よい感覚なので、状況が許せば無理に止める必要はないでしょう。座っているべき時間等には、止めるというより、すべきことを促す関わりが良いと思われます。

また、その感覚に没頭しすぎてしまう場合には、他の遊びに誘うのも良いでしょう。

Q2　一度、太鼓の音に驚いて以来、体育館に入るのを嫌がります。

A　無理に慣れさせようとしない、受け入れられない刺激は避け、少しずつ安心感を取り戻せるように

みんなが平気な音を非常に不快に感じ、その記憶がずっと残っていると思われます。無理に慣れさせようとせず、苦手な太鼓は排除してあげて良いでしょう。年齢が上がると受け入れられる刺激も増えていきます。

嫌な出来事を思い出してしまう体育館も、無理に入らせようとせず、少しずつ段階的に安心感を持てるように、取り組んで行くと良いでしょう。

Q3　おしっこをギリギリまで我慢して、濡らしても訴えてこないことがあります。

A　様子を見てトイレを促す、適切な感覚を教えていく

極端に敏感な部分や鈍感な部分があったり、快不快も一般的な感じ方と異なる等、感覚の独特さがあるのでしょう。おしっこの我慢も、何か感覚的な理由があると思われるので、本人の訴えを待たず、様子を見て我慢しすぎる前にトイレを促すことが望まれます。

パンツが濡れても平気でいる場合には、気持ち悪い感じを十分に感じられていないかもしれないので、「濡れて気持ち悪いね」と声をかけ、これは濡れて気持ち悪いんだということを教えていきましょう。



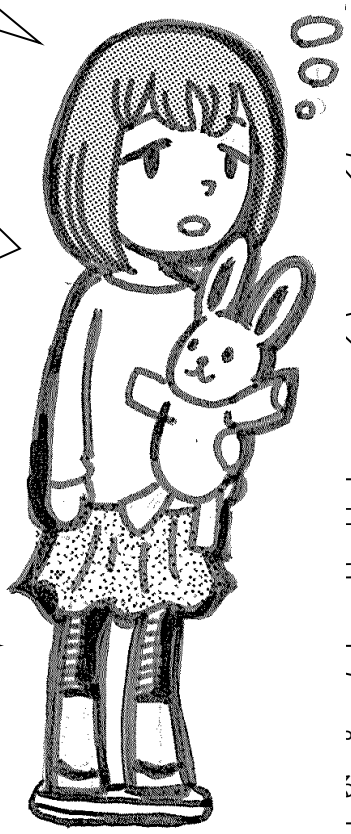




４ 全体的に発達がゆっくりな Dちゃん

小さい頃は・・・
歩き始めや話し始めが遅く、どちらかと言うとボーっとした子でした。

お友達がふざけると、一緒になってふざけてしまう



遊びの幅が狭く、新しい遊びに誘っても、あまり興味を示さない

先生の話を聞いているように見えても、実際に指示の通りには動けない

全体的に動きがゆっくりで、活動的ではない

周囲の動きを見ながら、いつも一番最後に、みんなの後をついて動く

数が少なく、言葉で上手に話せない

いつもニコニコしている

ぶり、ツメかみ、身体のどこか
等がある

Dちゃんってこんな子？？

運動・言葉・理解力等、全体的に年齢より発達が幼く、受動的で自ら積極的に動くことが苦手です。複雑な指示や難しいルールゲーム等は、同齢の他の子のように理解することが難しいです。

人が好きで、人に言われたことには従うので、周囲を困らせることはないですが、わからなくても自分から訴えられないため、集団の中に埋もれてしまいがちです。

Q1　注意しても、同じことを何度も繰り返します。

A　わかりやすく簡潔に、繰り返し教える

注意の内容が理解出来ていなかったり、教えられてもすぐに忘れてしまうのかもしれません。短い言葉で端的に、あるいはジェスチャーや絵を用いて「×」を伝えたり、すべきことを具体的に伝えていくことが大事でしょう。

Q2　制作課題の時、作り方を説明してもきちんと理解出来ません。

A　言葉だけでなく、目で見てわかるように

言葉の理解力が十分育っていないので、年齢よりも幼い子に伝えるように、簡潔にわかりやすい表現が望まれます。ジェスチャーで示したり、手元に見本を置いたり、目の前でやって見せる等、目で見てわかるような配慮も合わせてすると良いでしょう。

Q3　給食の準備等、動きに時間がかかり、その都度指示しないと出来ません。

A　スモールステップで、少しずつ身につけていく

活動の流れを細かいステップに分けて、一つ一つ練習していくことが良いでしょう。

Q2同様、一緒にやって見せたり、給食袋の実物を見せて、ロッカーに取りに行くことを伝える等、目で見てわかる工夫も有効でしょう。繰り返し行い、時間をかけて流れを理解していくことが大事と思われます。







第2章　Q＆A

保育園や幼稚園で実際に先生方から受けた質問について、それぞれのタイプ別に考えられる理由と、理由に応じた対応例を紹介しています。

1　遊びについて

Q1　玩具で遊ばず、投げてしまいます。

	こういう理由かも…	こういった対応がいいかも！
 A君	**気持ちを抑えられない** 遊びが思うようにいかず、気持ちが高ぶり、物にあたってしまうのかもしれません。	**⇒投げる前に先生が対応する** うまく遊べていない時には、気持ちが高ぶる前に先生の方から気付いてあげて、まずA君の気持ちに共感し、うまく遊べるように援助できると良いでしょう。
 B君	**玩具の遊び方やルールが分かっていない** 玩具の遊び方がわかっていなかったり、「投げてはいけない」というルールがわかっていないのかもしれません。	**⇒すべき遊び方を教える** 「投げるのは×だよ」とルールを教えつつ、投げるのでない具体的な遊び方を、実際にやってみせて教えると良いでしょう。
 C君  Dちゃん	**投げることが遊びになっている** その玩具の遊び方が難しく、むしろ、投げる感覚自体が遊びになっているのかもしれません。	**⇒違う遊び方ができる遊びを** 投げるのでない遊び方で楽しめる玩具や遊びを、大人が関わることを通して、教えていけると良いでしょう。 投げる感覚自体が好きならば、ボール遊び等、投げても良い遊びを提供するのも良いでしょう。

Q2　一人遊びが多かったり、同じ遊びばかりしています。

こういう理由かも…	こういった対応がいいかも！
 A君 **周りとペースが合わない** 他の子とペースが合わず、一人でやりたい遊びに熱中していたり、気持ちが先行してルールが守れず、集団から外れてしまっているのかもしれません。	**⇒大人が間に入る** 他の子と一緒に遊べるように、大人が間に入ると良いでしょう。 周囲に関心が向くように促したり、ルールを意識させる等、周りの子どもにペースを合わせて遊べるように対応しましょう。
 B君 **遊びを共有しにくい** 楽しみを他の子と共感しづらく、自分の好きなことだけに関心が向いて、遊びが広がらないのでしょう。 また、玩具を見ても、どのように遊ぶのかイメージが持てず、知っている遊びを繰り返しているのかもしれません。	**⇒好きなものを通して、遊びを広げる** 好きなもの（車等）を通して活動に誘うと、遊びが広がりやすいでしょう。 また、実際にその玩具で遊ぶところを見せたり、単純な繰り返しや目で見て結果がわかる遊びだと、興味を持ちやすい場合もあります。 本人の世界を保障し、大人が一緒に遊ぶことを通して、周囲に関心が向く時期を待つことも大事です。
 Dちゃん **遊びの内容が難しい** 遊びの内容がDちゃんには難しいため、興味が持てず、理解できないのかもしれません。	**⇒本人が楽しめる遊びを一緒に** 無理にみんなと遊ばせようとせず、Dちゃんが楽しめて他の子と共有できるもので、一緒に遊ぶと良いでしょう。 また、同じ遊びでもバリエーションをちょっと変えたり、「タッチされたら走るよ」等遊び方を具体的に教えながら、大人が一緒に遊んで、遊びの幅が広げられると良いでしょう。

Q3　切り替えが苦手で、遊びから次の活動に移れません。

こういう理由かも…　⇒　こういった対応がいいかも！


A君

いつまでも遊んでいたい気持ちが強い

終わりだと分かっていても、いつまでも遊び続けたい気持ちが強く、気持ちを切り替えられないのでしょう。

⇒事前予告により、区切りを明確に、気持ちの準備を

「時計の針が3まで」「あと3回やったら終わり」等、事前に終わりの区切りを明確に伝え、気持ちを準備させると良いでしょう。


B君

次に何をするかわからない

周りの子がお片づけをしていても終了に気付かない等、状況が理解できず、終了の区切り･やるべきこと･次の予定等、活動の流れがわかっていないものと思われます。

また、変化が不安だったり、興味あることへ集中しすぎたりして、切り替えられないのかもしれません。

⇒やるべきことを具体的に伝える、役割を与える

「ブロック片付け係をお願いね」等、やることを明確に指示したり、お仕事として係をお願いすると、お片付けに切り替えやすいかもしれません。

⇒その後の予定を伝え、気持ちを次に向かわせる

「お片付けしたら、給食だよ」等、日課の見通しを具体的に伝え、気持ちを次の活動に向けさせると良いでしょう。給食の写真や給食セットを見せる等、視覚的な提示が有効な子もいます。


Dちゃん

活動の流れや指示がわかっていない

活動の流れや指示の内容がわかっていなかったり、お片付けと言っても、何をどうやったらいいか、わからないのかもしれません。

⇒丁寧に教え、繰り返し経験する

わかりやすい簡潔な声かけと共に、先生が片付けるお手本を示したり、手を取って片付けを手伝う等、丁寧に教えていくと良いでしょう。

日々繰り返していく中で、少しずつ身についていくと良いですね。

ひといきコラム①

一人遊びってダメなこと？

一人遊びばかりしていると、ついついお友達と遊ばせようとしたくなりますよね。

子どもにとって一人でじっくり遊べる時間は、集中力がついたり落ち着くことができたりと、とても大切な時間です。無理にお友達と遊ばせようとせず、子どもの好きな遊びを十分に保証してあげつつ、徐々にお友達との関わりも広げていけるといいですね。

また、子ども自身のお友達と遊びたい気持ちが十分でないと、無理に誘っても嫌な経験になってしまいます。まずは一人遊びの時間を大切にしてあげて、集団で過ごすことが嫌ではない経験が重ねていけるといいと思います。

☆心理士より☆

こだわりって？？

「こだわり」と一口に言っても、そのお子さんにとって、そのこだわりが持つ意味は様々です。他に知っている遊びがないから、一つの遊びにこだわってしまう、わからなくて不安だから、唯一わかることにこだわってしまう…。特に不安や緊張が強い状態では、こだわりが強まることがあります。こだわりがあることは悪いことではありません。お子さんが安心して楽しく過ごせる環境で、こだわることを認めてあげて、少しずつ楽しいものや好きなことを増やしてあげられるといいでしょう。

☆心理士より☆

身体を使う遊びの大切さ

遊具遊びや運動遊びは身体の発達だけでなく、手操作や心、コミュニケーションの発達等全体的な発達に影響します。

家族やお友達と一緒に、様々な運動遊びを楽しみましょう。

☆作業療法士より☆



遊びと目の関係

遊ぶためには、手の運動だけではなく、目で玩具を見続けたり、 動くものを目で追い続ける「目の運動」 が関係しています。いろいろな速さで動くもの（風船、昆虫、電車など）を目で見続けることも、目の運動を促す遊びです。子どもの姿勢、物の位置関係についても観察してみましょう。

☆作業療法士より☆

2　集団への参加について

Q4　クラス全体への指示や説明が理解できません。

こういう理由かも…　⇒　こういった対応がいいかも！



A君

他のことに気を取られてしまう

　他のことに気を取られて、先生の話がちゃんと耳に入っていないのかもしれません。

⇒集中しやすい工夫を

　話し始める前に注目を促したり、絵や実物を見せて関心を引いたり、他の子が目に入らないように一番前の席にする等、先生の話に集中しやすくなる工夫をすると良いでしょう。



B君

言葉の意味が十分理解できていない

　推測や想像が苦手なため、言葉は知っていても、的確に内容を理解できていないものと思われます。

⇒視覚的な提示を

　言葉での説明だけでなく、見てわかるような視覚的な提示が有効です。

　例えば制作課題の時なら、制作途中のサンプルや完成品のサンプルを見せたり、切る部分に線を引いたり、実際にやり方をやってみせる等、その子にわかりやすい工夫が望まれます。



Dちゃん

全体の指示だけでは理解できない

　言葉だけなく全般的な理解力が十分育っていないため、話の内容や状況が理解できず、話にも集中できないのでしょう。

⇒丁寧に、わかりやすく、個別の指示や対応を

　簡潔な表現でわかりやすく話すと共に、B君同様、見てわかる工夫をするのも良いでしょう。

　「今はこれだよ」「次はあれだよ」と具体的な声かけをもう一度する等、個別で対応した方が良いでしょう。

Q5　初めてのことや普段と違う活動だと、参加を嫌がります。

こういう理由かも…　⇒　こういった対応がいいかも！



先が見通せず、不安

刺激一つ一つに意識が取られる子も、想像が苦手な子も、敏感な子も、理解力が育っていない子も、いずれも新しい場面や慣れない状況だと、どういう場所で、何があり、その後どうなるのか等、先を見通すことができず、不安が強まって、参加を拒否してしまうのだと思われます。

⇒事前に流れがわかるように

新しい活動がイメージしやすいように、事前に流れや進行を伝えておくと良いでしょう。

視覚的な提示が理解しやすい場合も多く、絵や図や写真等を用いて、活動の流れを説明するのも有効です。

また、最初から活動への参加が難しい場合は、みんなの動きを見るだけから始め、流れがわかって安心できると、少しずつ参加する子もいます。

ひといきコラム②

「行動」について

先生方は、子どもの「困った行動を減らしたい」「良い行動を増やしたい」と日々思われていると思います。この「行動」とは、行動を扱う行動療法では「客観的に測定できるもの」、つまり具体的に数えられるものと定義されています。「～しない」「ちゃんとする」は数えられませんよね。また、「じゃあどうしたらいいの？」と具体的な行動が分かりませんよね。「困った行動を減らしたい」「良い行動を増やしたい」と思われるときは、子どもにも「走らないよ」ではなく「歩くよ」、「ちゃんとして」ではなく「手はお膝で座ってね」と具体的な行動で伝えてあげてください。

☆心理士より☆

Q6　興味のない活動だと、参加せずに出て行ってしまいます。

こういう理由かも…	こういった対応がいいかも！
 A君 **興味がないことへ注意を持続することが難しい** 教室を出てはいけないというルールはわかっていても、興味がないと意識を集中させることが難しく、どうしても外の興味あることに気持ちが向いてしまうのでしょう。	**⇒本人が守れそうな目標で、個別のルールを作る** 少しの間なら我慢できる場合は、「時計の針が3になるまで座って」と短時間我慢を促すのも良いでしょう。 それが無理なら、勝手に出ていくのでなく、先生に許可を得ることを教え、「まだ、どうぞって言ってないよ」と、少し待つことを促します。 「席は立っても教室からは出ない」「課題に集中しないけど、自分の席でお絵描きして過ごす」等、その子が守れそうな個別の目標やルールを作り、それを守れたらほめる、という形でルールに従うことを学ばせていくと良いでしょう。
 B君 **自分がすべきことや取り組む意味がわかっていない** 状況・活動の流れ・教室のルール等、自分のすべきことがわかっていなかったり、興味のない活動をやる意欲がわかないのかもしれません。	**⇒流れを具体的、視覚的に提示** 今何をすべきか、いつまで教室で活動するのか、いつ外に出ていいのか等、具体的に伝えると良いでしょう。絵や図等、その子にわかる視覚的な提示の工夫ができると良いです。また好きなもの（車等）を題材とする等、活動に興味を引く工夫も良いでしょう。
 Dちゃん **活動全般がきちんと理解できない** 状況や流れ・ルールだけでなく、課題自体も難しく、活動全体が理解できていないものと思われます。	**⇒丁寧に、わかりやすく、個別の指示や対応を** B君同様、わかりやすい提示をすると共に、一緒にやってあげる等、個別に対応することが望まれます。

Q7　列にきちんと並べなかったり、順番が待てなかったりします。

こういう理由かも…　⇒　こういった対応がいいかも！



A君

早くしたい気持ちでいっぱい

「早く早く」という気持ちで頭がいっぱいで、順番のことが意識から抜けてしまったり、「一番以外はつまらない」という気持ちが強いのでしょう。

また、整列しようとみんなが動いている周囲の状況に、気持ちが高ぶってしまうのかもしれません。

⇒待てることに注目する

一番になることより、順番に並ぶことが良いことであると伝え、「待ててカッコいいね」と先生が待てることに注目してほめると、順番を守る方に意識が向きやすくなるでしょう。

⇒落ち着きやすい環境を

少しスペースを空けて立たせたり、みんなが終わった後に並ばせる等、落ち着きやすい環境で並ばせると良いかもしれません。



B君

具体的にどうしたらいいか、わからない

「順番に並ぶ」という言葉は知っていても、具体的に、どこでどのようにすればいいか、わからないのかもしれません。

⇒具体的な並び方を教える

整列する位置に線を引いて目印をつけたり、「○○君の前」「気をつけの姿勢で待ちます」等、具体的に並ぶ場所や待ち方を教えてあげると良いでしょう。



Dちゃん

指示が十分理解できない

全体の指示だけでは、今何をすればいいのか、きちんと理解できないものと思われます。

⇒個別で丁寧に教える、お手本を示す

個別の声かけをしたり、並び方のお手本を示す等、並び方を丁寧に教え、それを毎日繰り返し経験すると、少しずつ並ぶことがわかってくるでしょう。

3　言葉とコミュニケーションについて

Q8　できないことやわからないことがあっても、自分から聞いたり、助けを求めたりできません。

こういう理由かも…　⇒　こういった対応がいいかも！



A君

気持ちが急いて、間違っていることに気付かない

やりたい気持ちが急いて、間違っていることに気付かないのかもしれません。行き当たりばったりで取り組み、うまくいかなくなったり人に手伝われると、活動全てが嫌になってしまうのかもしれません。

⇒失敗しないように、さりげなく手伝う

先生が本人の様子を見て、失敗しないようにさりげなく手伝い、達成感が持てるようにすると良いでしょう。

また、「わからないことは聞いてね」とクラスみんなに伝え、「助けを求めることは良いこと」という雰囲気を作るのも良いでしょう。



B君

助けを求める方法がわからない

言葉は知っていても、どうやって助けを求めればいいかわからず、訴えるという方法が思いつかないのだと思われます。

⇒訴え方を教える

困っていそうな時に、「先生教えてって言ってね」と具体的に助けの求め方を教えると良いでしょう。質問タイムを設定する等、いつどうやって質問するのか、わかりやすくすると訴えられる場合もあります。

「訴えたら助けてもらえた」という経験の積み重ねで、そのスキルが身について行くと良いですね。



Dちゃん

困っている意識が持てない

状況がよくわかっておらず、「困っている」という意識が持てていないのでしょう。

また、B君同様、訴え方がわからないのかもしれません。

⇒先生の方から気付いてあげる

自分から助けを求めさせるより、先生が気付いて手伝ってあげる段階かもしれません。その時にB君同様、具体的な助けの求め方を教えていき、少しずつできるようになると良いでしょう。

Q9　友達との関わりの中で、人のものを取ったり、手を出してしまったり、ぶつかったり押したりすることがあり、トラブルをよく起こしてしまいます。

こういう理由かも…　→　こういった対応がいいかも！


A君

気持ちが先行してしまう

やりたい気持ちが先行し、周囲が見えなくなって、ぶつかったり押したりしてしまうのかもしれません。

自分でもぶつかった意識がなかったり、相手がどう思うか、考えられなくなっている場合もあるでしょう。


B君

邪魔されたと感じている

周囲の状況や他の子の気持ちがわからないため、自分の世界や遊びを邪魔されたと感じて、手を出してしまうものと思われます。


C君

周囲のザワザワした環境が不快

子ども達がたくさんいる周囲のザワザワした環境が不快で、手を出してしまうのかもしれません。


Dちゃん

言葉でうまく伝えられない

言葉の発達が遅く、自分の気持ちをうまく伝えられないため、行動で示してしまうのでしょう。

⇒否定的な声かけはしない

いずれの場合も、いじわるをしようとの意図でなく、他の方法が取れずにやってしまうことなので、「ダメ」「やめなさい」等、否定的な叱責の表現は混乱を強めるだけなので、望ましくないでしょう。

⇒適切な表現方法を教える

言葉で気持ちを表現できないと行動にしてしまうので、まず「使いたかったんだね」と共感し、それから「貸してって言おう」等、手を出すのではない適切な表現方法を教えましょう。

子ども同士でうまく伝えられない場合は、まず先生を呼ぶことを教え、先生に助けてもらうことで、手を出さない解決方法を学ぶことも良いでしょう。

⇒先生がその子の特性を理解する

先生がそれぞれの子の特性や理由を理解し、トラブルとなりやすい集団場面では、事前に大人が対応できる体制を作ることが大事でしょう。

集団刺激の中だとどうしてもトラブルになってしまう場合は、タイミングをずらして参加させたり、集団から距離を取る等、落ち着ける環境や時間を提供することも良いでしょう。

Q10　お話はするのですが、発音が不明瞭です。何を言っているのかわからないこともあります。

こういう理由かも…　⇒　こういった対応がいいかも！


みんな

言葉の発達の個人差

言葉の発達には個人差があり、表出面も理解面もゆっくりな子、発音は不明瞭でも理解面が先に伸びる子、状況理解より言葉が早い子等、様々です。

決まった発音だけ不明瞭さが残る子もいて、それぞれの発達のペースがあります。



⇒話すことの意欲を高める

まずはお話をよく聞いてあげて、話したい気持ちを育てていきましょう。

⇒発音だけに注目せず、発達段階に合わせた刺激を

音声の模倣が育ってから、単語が出てきますし、言いやすい音や言いにくい音があり、特にサ行、ラ行、カ行等は、最後の方に獲得する音です。

言葉の発達の段階やペースがあるので、とにかく発語を促したり、正確な発音を言い直させるのでなく、さりげなく正しい発音のお手本を示しながら、ゆっくり成長を待ちましょう。

⇒発達状況に応じて、専門相談を

年齢や発達状況、保護者の心配感に応じて、専門機関に相談してみると良いでしょう。

ひといきコラム③

発音の間違い･･･どうしたらいい？

こどもの発音は発達の途中で、個人差があるものです。

体、心、ことば、食べること等が土台になって発達していきます。よく噛むこと、元気に遊ぶこと、色々な経験をすることで全体発達を伸ばしていくことが大切です。

☆言語聴覚士より☆

Q11　おしゃべりが好きで、たくさん話しかけてくるのですが、一方的に話すことが多く、こちらの質問には答えてくれません。

こういう理由かも…	こういった対応がいいかも！
 A君 **話したいことが次々と出てくる** 思いつくこと、話したいことが次々と出てきて、相手の話が耳に入らず、止まらないのかもしれません。	**⇒話を整理したり、切り替えたりする** 一人で話が展開し過ぎないように、ある程度のところで話題を切り替えたり、「今度は先生が話すね」と話す順番を整理すると良いでしょう。
 B君 **周囲の状況がわかっていない** その時の状況や周りの人の気持ちが理解できず、興味の対象のことしか頭にないため、自分の言いたいことを一方的に話してしまうものと思われます。	**⇒聞くことを意識させる** 「大事なお話するから聞いてね」等、こちらに注意を向けたり、A君同様話す順番を整理するのも良いかもしれません。
 Dちゃん **話している状況や内容がよくわかっていない** 相手の言っていることが理解できなかったり、状況がよく理解できていないのかもしれません。	**⇒本人にわかる話しかけを** 短く簡潔に伝えたり、興味ある話題を出したり、ジェスチャーや実物を見せて伝えたり、答えの選択肢を与える等、わかりやすい内容で話すと良いでしょう。

ひといきコラム④

コミュニケーションの力を育てるには・・・

大人はついついことばだけに注目してしまいがちですが、身振り、指さし、視線、表情など言葉以外の手段もコミュニケーションに大きな役割を果たしています。一緒に遊んで楽しい、人に伝わると嬉しいなどという経験を通してコミュニケーションの力を育てていきましょう。

☆言語聴覚士より☆

4　運動について

Q12　何もないところでよく転んだり、体の使い方がぎこちないのが気になります。

こういう理由かも…　⇒　こういった対応がいいかも！


A君

気持ちが先行し、体のコントロールが難しい

気持ちと体をうまく調節することが苦手なのだと思われます。

また、視界に入った他の子の動きに影響され、注意が移って動きを合わせられないのかもしれません。

⇒コントロールしやすい工夫を

「ゆっくり」「今、手を動かしてるよ」等、体の動きを意識できるような声かけをしたり、他の子の動きが目に入らないように一番前で体操する等、集中しやすい環境の工夫をすると良いでしょう。


C君

身体的感覚が独特

イメージ通りに体を動かす感覚が弱く、動きがぎこちなくなってしまうのかもしれません。

リズムに合わせるような体の動きも苦手と思われます。

⇒お手本を示し、できる動きから段階的に

動きのぎこちなさが特性と捉え、その子に合わせた目標設定が望ましいです。実際の動きをやって見せたり、言葉で動きを伝えたり、手を添えて体の動かし方を教えたりすると良いでしょう。一度に全部の動きができることを求めず、「この動きだけ真似る」等、簡単な動作の模倣から始め、段階的にできることを増やしていきましょう。


Dちゃん

動きがわからない

運動面の発達がゆっくりだったり、一つ一つの動きや流れがわからないものと思われます。

⇒発達の速度に合わせて少しずつ

C君同様、動作の一部から練習させたり、小さなステップに分けて、繰り返し練習していくと良いでしょう。

Q13　先生が話をしている時に椅子の背もたれに寄りかかる等、座っている姿勢が崩れやすく、注意されることが多いです。

こういう理由かも…	こういった対応がいいかも！



A君

気が散りやすい

先生の話に注意を向け続けるのが苦手で、良い姿勢で座る意識が持続できないのでしょう。

また他のことに気を取られ、姿勢のことが意識から抜けてしまうのかもしれません。

⇒興味が向くような工夫を

長い話や注目すべき点が曖昧だと飽きてしまいます。抑揚のある話し方やペープサートを用いる等、意識が向きやすい工夫をすると良いでしょう。

また、時々「みんな、いい姿勢だね」と姿勢を意識させるのも良いでしょう。



B君

どういう姿勢をすべきか、わからない

「ちゃんと座って」と言われても、どういう姿勢で聞いたら良いのか、わかっていないものと思われます。

⇒具体的な良い姿勢を示す

「背中をまっすぐ」「手はおひざだよ」と具体的に伝えたり、絵やお手本を示す等、きちんとした姿勢の取り方を教えると良いでしょう。



C君

身体感覚が独特

バランス感覚や身体感覚の独特さにより、体へ意識が向きづらく、イメージ通りに体を動かしたり保ったりすることが、苦手だと思われます。

⇒周囲が特性を理解し、少しずつ練習を

やる気の問題ではないと周囲が理解し、時間をかけて成長を見守りましょう。ジャングルジム等、体を使う遊びを通して、体に意識を向けて姿勢を保つ練習をすることも良いでしょう。



Dちゃん

先生の話が理解できない

先生の話が理解できず、興味が持てないのかもしれません。またB君同様、きちんとした姿勢がわからないのかもしれません。

⇒Dちゃんにわかる話や内容を

話や活動をわかりやすくしたり、簡単・丁寧に伝えると集中や姿勢が良くなるかもしれません。またB君同様、お手本を示す等、具体的な良い姿勢を教えることも良いでしょう。

ひといきコラム⑤

覚醒の影響

睡眠不足だけではなく、興味の有無や姿勢によっても覚醒は変化します。ぼんやりしていると、話の内容に注意を向けたり活動に集中できなかったりします。朝の集会などで身体を動かしたり、大きな声を出す活動を取り入れると、脳が目覚めその後の活動が行いやすくなります。

☆作業療法士より☆



わが身を守る術・他者を守る術

子どもは頭が大きく重心が高いので、よく転びます。でも大けがをしないのは、意識しなくとも、防衛反応として、手が出て膝をつく格好となるからです。這いずっている赤ちゃんでも段差ではお尻から降りるし、歩き始めはバランスを崩すとしりもちをつきます。誰が教えているわけでもないのに、わが身を守る驚くべき安全策を取るのです。最近は転んで歯を折ったり、ほかの子どもとぶつかったりする子どもが増えています。身体を使った遊びが少なくなっているからです。そんな中、ぐるぐる回る子どもの中には、急にほかの子どもが近づいてきても、わが身をコントロールして、ぶつからない子どもたちがいます。ぐるぐる回っていても他者に危害を加えない子どもたち。いや～あっぱれです！

☆理学療法士より☆

いろいろな手の使い方を経験しよう

手の発達は、成長に伴い、身体の中心に近い部分（肩）から、肘、手首、指へと段階的に上手く使えるようになります。手の運動は、片手、両手の運動、指の運動などがあり、遊びに合わせてそれぞれを協調させて使います。「両手を同時に使う」運動は両方の手で荷物を運ぶときに、「左右の手の動きが異なる」協調運動は絵を描いたり、紙を切ったりする動作にみられます。また、「指を曲げ伸ばしする」協調運動ができるようになると、お箸やはさみを使うことができるようになります。遊びや生活の中で手を使いながら、手の運動は発達していきます。

☆作業療法士より☆

5　身辺自立について

Q14　着替えの途中でフラフラする等、支度に時間がかかります。

こういう理由かも…	こういった対応がいいかも！
 A君 **他のことに注意が向いている** 周囲の様々な刺激に気を取られ、今やっていることに集中できないのでしょう。	**⇒気が散る刺激を取り除く、注意を向きやすくする** ついたてを置いたり、他の子と着替えのタイミングをずらす等、気が散る刺激に触れさせない工夫も良いでしょう。 また「着替えたら給食だよ」「着替えたらシールだね」等、着替えに注意が向くような声かけも有効です。
 B君 **具体的な手順がわからない** 「まずこうして」「次にこうして」といった具体的な手順や流れが、きちんと理解できていなかったり、興味がないことをやろうという意識が持てないのかもしれません。	**⇒すべき手順を具体的に伝える** 「お着替えを出して」「お着替えの部屋に持って行って」「服を脱いで」等、流れを具体的に伝えると良いでしょう。絵等で示し、見て手順が確認できるものを用意するのも良いです。 声かけやほめることにより、「そうするもの」という意識が身につくと良いでしょう。
 Dちゃん **支度の手順ややり方が理解できていない** 何をどのようにするのか、支度の仕方全体について、わかっていないものと思われます。	**⇒一つ一つ丁寧に教える** 服を見せて視覚的に着替えを伝えたり、一緒にやってやり方を教える等、繰り返し丁寧に練習していくことが良いでしょう。

Q15　食事に時間がかかり、みんなと一緒に終われません。

こういう理由かも…　⇒　こういった対応がいいかも！



A君

他のことに気を取られてしまう

他の子との話に熱中して、食べることがおろそかになってしまうのでしょう。

⇒集中しやすい環境作りを

話が盛り上がり過ぎない子の隣にしたり、気が散るものが目に入らない食席にする等、刺激を抑える環境の工夫をすると良いでしょう。

また、「これおいしいね」等、食事に意識が向くような声かけをし、集中することを先生が注目してほめると、早く食べる意欲が高まるかもしれません。



B君

周囲に合わせる意識が持てない

状況理解が苦手なので、みんなが食べ終わっても、周りに合わせる、ということが思いつかないのかもしれません。

⇒終了の予告をする

「時計の針が3までに食べます」等、事前に予告をして具体的に終わりの区切りを示し、ルールとして教えると良いでしょう。



C君

感覚の過敏さがある

普通は気にならないような匂いや食感、熱い冷たい等の感覚を、非常に不快に感じているものと思われます。限られたものしか食べない、著しい偏食として現れる場合もあります。

⇒無理に食べさせようとしない

大きさや熱さ等、本人に食べやすい配慮をしても、なかなか食べないかもしれません。偏食は成長と共に改善されることが多いので、無理に今食べさせようとせず、楽しく食事することを優先することが大事です。



Dちゃん

上手に食べられない

咀嚼がうまくできなかったり、口につめこみ過ぎていつまでも飲み込めなかったり、また箸やスプーン等がうまく使えないのかもしれません。

⇒食べやすい工夫を

すくいやすいお皿を使ったり、食べ物をスプーンに乗せやすい大きさする等、その子の発達状態にあった道具や形態の工夫をすると良いでしょう。

実際にクラスの子どもについて、Q＆Aを参考にしようと思うとき･･･

優子先生のクラスの太郎君は、タイプ的には「感覚過敏タイプのC君」だけど･･･

絵本を読んでいると、どんどん発言するので、お話の内容を太郎君に質問してみると、うまく答えられないことが多いです。



① 「発言ばかりして答えない」のは、Q11（P25）の「問いかけに答えてくれない」と同じね。

②どんどん発言するところは、A君のような衝動的な特性にも似てるけど･･･

③答えの内容が質問に合っていないところは、内容がわからないDちゃんにも似てるけど･･･

④普段、勝手に席を立ったりしないし、決まったルールやお約束は、ちゃんと理解して守れるのよね。
そうするとB君みたいに、状況がわかっていないってことかも？



太郎君がどのタイプか、を考えるのでなく、どのタイプの理由に近いか、を考えるのに参考にしてください。

A君タイプだけど、B君の理由や対応が合っている子もいるでしょうし、またC君・Dちゃん両方の考え方が合う子もいるかもしれません。

「この子の場合はどんな理由？」という視点で子どもを見ると、きっと対応方法が見えてくるでしょう。

ひといきコラム⑥

成功体験の大切さ

小さい子どもは失敗したことから学ぶことがあまり上手ではありません。むしろ、うまくいったこと（成功体験）からたくさんのことを学びます。上手にできると達成感が得られるのと同時に、もっとやってみようという意欲が育ち、さらに上手にできるようになります。子どもがどうしたら成功体験がたくさんできるか考えていけるといいですよね。

☆心理士より☆

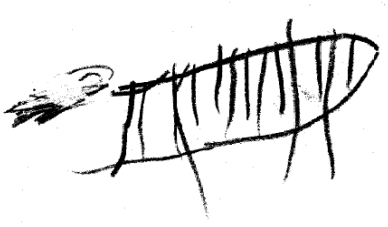
虐待について

問題行動を起こす園児がいたら、園長さんや主任さんは家庭生活での問題点を考えるべきだし、虐待の兆候を見逃してはなりません。しかし、若い教員・保育士には違う視点から考え始めてもらいたいと願っています。「その園児はどういう性質か？発達は遅れていないか？」など園児自身の問題点に着目できれば、性質や発達に偏りがあった時にそれなりの対応方法を考え出せるからです。最初から親子関係に着目して「親の愛情表現の問題」といった結論を導きだしても、愛着問題についての適切な対応策を考え出すのは困難です。まず発達や性質の問題を評価できるようになってから、親子関係の問題に着目する習慣がつくと理想的です。

☆湘南福祉センター　児童精神科医　猪股誠司先生より☆







第3章　専門職の立場から

1　医師の立場から



湘南福祉センター　児童精神科医　猪股誠司先生

『あばれはっちゃく』に支援は必要か？

発達障害のことがだいぶ世間に認知されてきました。しかし発達障害者支援の大切な部分がうまく伝わっていないと感じています。私のまわりでも「最近は大人の手に負えない子どもを発達障害があるから叱らずに誉めて育てろとすぐに言うけれど、『あばれはっちゃく』を叱らずに誉めてばかりいたらまともな人間に育つだろうか？」と言う友人がいます。暴れん坊な子どもが全て発達障害であるはずがありませんし、暴れん坊な子どもの多くは発達支援を必要としません。それでは支援を要する子どもにはどういった特徴があるのでしょう。

「あばれはっちゃく」は1970―80年代に放映されたTVドラマで、主人公は長太郎という暴れん坊の小学5年生です。長太郎は学業不振、ドジ、不注意、慌て者、かんしゃく持ち、喧嘩は日常茶飯事、教室の教台を投げ飛ばしたり、母親がお客さんと話していても会話に割り込み自分の要求を母に突きつけ困らせます。しかし長太郎は正義感が強く、困っている人を救うために奇抜なアイデアをひねり出し、驚くような行動力で問題を解決します。長太郎はいつも父親に鉄拳を喰らっています。しかし学級担任は彼の良き理解者で「勉強が出来なくてもお前には素晴らしいところがある」と励まします。「あばれはっちゃく」シリーズはDVDになっていてレンタルショップで借りることが出来ます。私は久しぶりに「俺はあばれはっちゃく」を観て考えました。結論から言うと主人公の長太郎には特別支援や医療的介入など必要ありません。その理由は、彼は問題児ではあるものの、弱い者イジメはしません。喧嘩はしますが自分より強い相手を選びます。つまり子ども社会の最低のルールを守るだけの衝動抑制ができているということです。そして彼は強い正義感と問題解決に向けた行動力の高さを教師や仲間に評価されています。彼は成績の悪さに悩んでいるものの、自信たっぷりに胸を張って生きているので発達支援や特別支援教育、医療介入は無用と考えます。



支援が必要な子どもとは？

ではどういう子どもが支援を必要としているかというと「他者に迷惑になる、もしくは他者を傷つける行動によって周囲から嫌われてもその行動を直せない子ども達」という事になります。ドラマの長太郎は友達に迷惑をかけても、自分の行動を反省して同じ迷惑行為を繰り返さないように努力出来るので、最終的に仲間から信頼されるのです。支援を必要とする子どもは「何でみんなが怒っているのか思いもつかない（感情理解の障害）」「やってはいけないと分かっているけど気が付いたらやっていた（衝動抑制の障害）」「みんなが何を言っているか分からなかった（受容的言語障害）」などの能力的な原因により何度注意されても嫌われ者になる行動を修正できない子ども達と考えます。

そのような子どもはどうして反省できないのか、その理由について触れたいと思います。人の脳には重要な機能が決まった場所に存在します。体を動かすための運動領域（運動野）は脳のてっぺんの方にあります。触った感覚を意識する領域（感覚野）はそのやや後ろ、喋るための領域（Broca 言語野）は耳の奥の方に、聴いた事を理解する領域（Wernicke 言語野）はそのやや後方にあります。他者の表情からその人の気持ちを想像する領域（紡錘状回やミラーニューロン領域）は脳の前方にまとまっています。そしてそれらの機能の発達は一定では無くバラツキがあるのです。脳の全体の発達が良い人もいますが、多くの人は発達良好な部分とそうでも無い部分があります。「スポーツ万能だけれど話し下手」なＡ君がいたとします。Ａ君は言語領域の発達は月並みでも、運動領域と運動を調整する小脳がよく発達しているのでそのような特性になると考えてよいでしょう。脳の発達が部位によって違うことが理解出来ると、発達障害も理解できるはずです。例えば自閉症スペクトラムの特性は、記憶力はとても良く、興味関心のあることに没頭する集中力や、何度でも同じことを楽しむ能力が高いことが知られています。しかし人の表情を認識したり、他者の立場になってその人の気持ちを想像することや、他者の気持ちに共感すること、他者の言葉の意図を理解することが困難です。そうした自閉症スペクトラムの認知特性は、記憶や集中力などの能力は飛び抜けて発達しているのに、他者の表情認知や感情理解などの能力に関連する部分の発達が遅いか機能低下していることによって生じているのです。「スポーツ万能だけれど話し下手」なＡ君の能力のバラツキとは比になりませんが、同じ原理で生じている認知特性だと考えると理解しやすいと思います。



自己肯定感を高めるために

幼少期の自閉症スペクトラムの子どもは、自分の行動が相手に与える影響を想像することがほとんど出来ません。ですからまったく悪気も無く「君って変な鼻の形をしているね」と言ってしまうかもしれません。長太郎が同じことを言って、友達に「自分が言われたらどういう気持ちになる？謝れよ」と注意されたら彼は失礼な言動だったと気が付き反省するでしょう。しかし自閉症スペクトラムの子どもは「相手がどういう気持ちになるか考えろ」と注意されてもそれを想像する機能が発達していないので、相手の気持ちを想像しようがなく、反省もできないでしょう。反省できなければ行動修正できません。似たような行動をとり続ければ嫌われ者になってしまいます。幼少期に自分のことを嫌いになってしまうと後の人生に負の影響が及びます。些細な失敗から立ち直ることが難しくなり「自分がいるからみんながやりづらいんだ、いない方がみんなのためだ」などと極端に自責的に考える癖がついてしまうと、うつ病や不安障害などの精神疾患にかかりやすくなってしまいます。

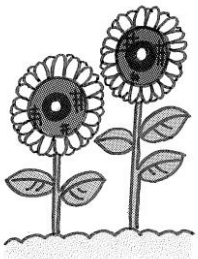
ですから「嫌われ者になる行動を修正できない」子どもには発達支援を通じて「自分にはスゴイところがあるよ」「お父さん・お母さん・先生は僕・私の事を大切に思っている」と自己肯定感を高くすることが大切な支援の目標です。５８１人の発達障害者を対象にしたある研究報告では、「現在の生活に満足している、もしくは楽しいと感じている」と回答した１５４人は、早い時期に発達障害の診断を受けている、育児や教育になんらかの発達支援がされてきた、という共通点があったと報告しています（小山智典２００９年）。

全ての暴れん坊が支援を必要としているわけではありません。支援を必要としているのは「他者に迷惑になる、もしくは他者を傷つける行動によって周囲から嫌われてもその行動を直せない子ども達」で、支援の目標は「自己肯定感を高めること」ということを周りの人にも教えてあげて下さい。発達支援の重要性が誤解されること無く社会に浸透すれば、多くの子どもたちの未来が変わるでしょう。





2　巡回相談を通して



湘南養護学校　支援部　篠崎恵子先生

湘南養護学校は県のセンター的役割として平塚市、大磯町、二宮町にある幼稚園、学校等に、巡回訪問をしています。

具体的な活動としては、先生方に対する教育相談、指導体制や幼児・児童・生徒の実態把握、対応の検討、地域に向けた研修会の開催などを行っています。

教育にはマニュアルがありません。目安はあっても指導する子どもの特性、性格、家庭環境、友だち関係などをトータルに捉えて対応しなければなりません。今までに出会ったことのないタイプの子どもを担任して対応に悩むこともあります。文献等を通じて得た知識を保育や教育の現場でうまく応用できずに途方に暮れてしまう時もあります。

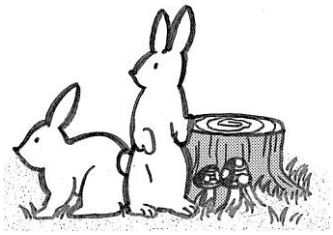
そのような時には、ぜひ周りの先生方とその日の出来事について話をしてみることをおすすめします。すると、対話を通してそれまで混沌としていた子どもの姿が整理され始めてきます。そして、気がつかなかったアイデアと出会うことができて関わりのヒントも見えてくるものです。

その話し合いが園内・校内でケース会議に発展し、『より専門的な助言』『第三者の視点からの意見』が必要となれば、いつでも巡回相談の要請を出してください。

本校の支援部では、心理の専門職と相談担当の教員がニーズに応じて先生方を支援いたします。巡回の際の心構えとして、訪問先の先生方と一緒に考えるスタンスで連携していきたいと考えています。



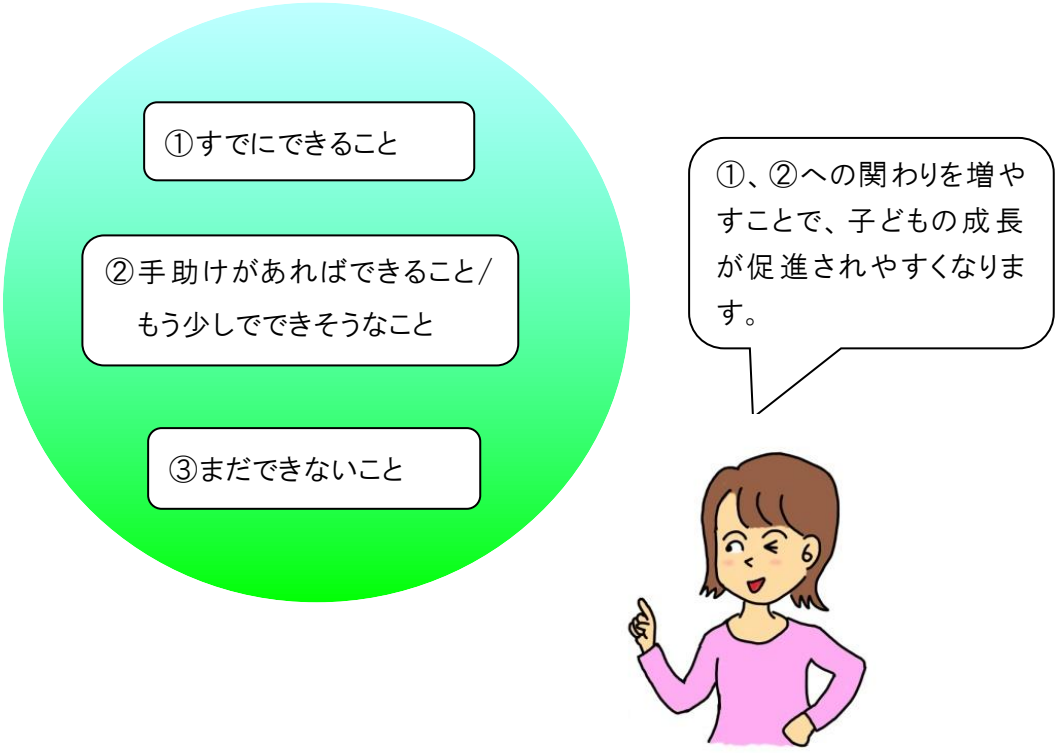
3 「やった、できたね！」が成長を促す



湘南養護学校　臨床心理士　小川浩平先生

一人ひとりの発達状況をアセスメントするときに、子どもの力を①すでにできること　②手助けがあればできること、またはもう少しでできそうなこと　③まだできないこと、の３点に分けて子どもの力を実態把握してみてください。そして、①と②に注目して褒めたり、必要な分だけ手助けしたりすることによって、子どもはチャレンジしてみようという積極性と忍耐力を養うことができます。実は、子どもは①や②への関わりを増やすことで、自然と③の課題が②⇒①と移行していくので、③にばかり目を向ける必要はないのです。このとき、肯定的な関心を与えないままに③のできないことを無理にやらせたり叱咤したりすると、より一層苦手意識や消極性を強めてしまうので注意が必要です。

小学生以降大きくなるにつれて、乗り越えなければならないいくつものハードルが待ち構えています。「ここ一番で頑張ろう！ 乗り切ろう！」という強い気持ちを持てるようになるためには、特にこの幼児期までの成功体験と肯定的な関わりが重要です。この時期は、子どもの笑顔を引き出すことができればできるほど、成長に向けての心の栄養をたくわえていくことができます。そして、私たち大人は、子どもの笑顔を成長の重要なアセスメントのポイントとして、毎日楽しく子どもたちと接することができるよう工夫したいものです。



4　就学にむけて、身につけてほしい力



平塚養護学校　支援班　橋爪京子先生

小学校の生活は、「朝決まった時間に学校に行き、45分間座って先生のお話を見たり聞いたりして知らないことを学び、決まった時間に給食を食べ元気に帰る」といった時間枠の生活と集団生活が求められます。そのために必要と思われる園生活のポイントを3つあげたいと思います。

(1)規則正しい生活をする

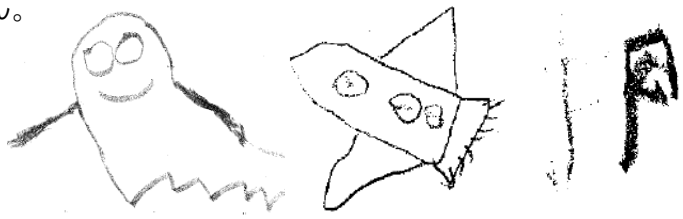
毎朝7時頃には起きて朝ごはんを食べ、排便し、元気に登園して楽しく活動する。この当たり前のことが一番大切だと思っています。早く寝かせることは難しくても、朝日を浴びて同じ時間に本人を起こすことはやりやすいものです。家庭力が弱い場合もありますが、丁寧に連携を取りながら進めたい作業です。

(2)見る構え・聞く構えを作る

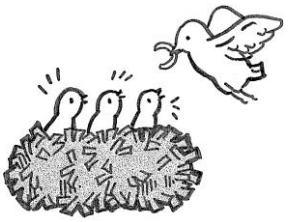
45分座って先生の話を見続けたり聞き続けたりするには、「重たい頭を支えるための体幹をつくることと、注意をコントロールする力を育てること」が重要です。身体の中心である体幹の姿勢を保持する筋肉は、インナーマッスルと呼ばれ身体の奥にあります。この筋肉が弱いと座ると猫背になってしまうことも多く、頭が下がれば見える範囲も狭くなり、先生の話に注目しにくくなり注意力が下がり内容が分からなくなります。ハイハイや外遊び、ジャングルジムや登り棒等の固定遊具やリトミック等はその筋肉を使うことが多く、それを土台に末端の口先・手先の育ちへとつながります。文字を書くにも発達段階があり、○十□△◇が書けて初めて文字が書けるようになり、箸もドアノブを開けるような動きやつまむ動きができないと正しい持ち方で箸を使うことはできません。子どもたちは、同じ運動を何度も繰り返し身につけていきます。慌てず子どもの成長にあわせて関わりたいですね。

(3)自分をちょこっとコントロール

4歳の頃、社会性の脳（前頭前野）が育ち始めルールのある活動ができてきます。例えば、大切なお話をする前にお約束の絵（手はお膝）を見せ、振る舞いを伝え、見える所に貼ります。大切な話は短く、絵に描けるような分かる言葉でゆっくり話します。お約束が守れている時に「えらいね」と誉め、注意が逸れる前にお約束の絵に注目させて注意をコントロールします。子どもは誉められると脳に報酬の物質が出て気持ちがいいので、同じことを繰り返そうとします。ちょこっと我慢、ちょこっと待つ、そんな力を育てるためにも、大人との信頼関係の構築はかかせません。



5　保護者支援について

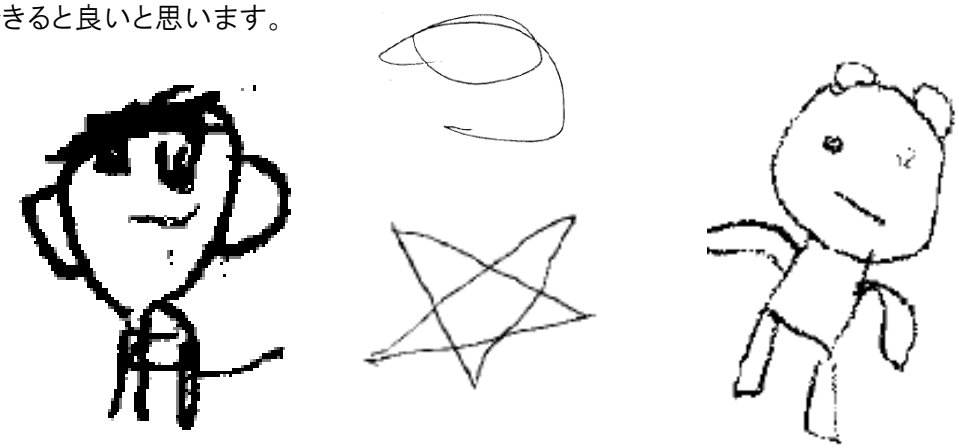


平塚市富士見保育園　園長　　牧野恵子先生

保育園の支援の中で心掛けていることは、保護者の方が子どもを好きでいてほしいということです。当たり前のことのようですが子どもを好きになれない方もいます。私達は保育を通して、保護者の知らない子ども達の姿を見ます。それは、かわいらしい姿であり、また集団の中でしか気付けない姿でもあります。プラスとマイナスの姿の中には、集まれない、話が聞けない、飽きやすいなど発達の遅れを感じさせるものもあります。

気が付いたことをそのまま保護者の方に伝えてもなかなか理解はされませんし、「家では困ることはありません」となってしまうので、まずは保護者の方に集団の中の子どもの姿を知ってもらうことを大切にしています。そして、保護者が子どものマイナス面に目を向けている方の場合は、特に子どものプラスの場面の話をたくさん伝えるようにしています。まずは子どもの良い面を知って欲しいからです。どの子もマイナスとプラスの面を持ち合わせていますが、保護者の方は子どもの一番の理解者でいてほしいと思います。

また、「問題はありません」と行動面で気になることがあっても気にしていないようにふるまう方の場合は、場面を伝えて問題行動を知っていただきます。その場合は、保護者の方だけでなく私たちも一緒に考えていきたいということをお伝えします。家庭での様子も聞かせていただきます。保護者の方と話をした上での子どもへの保育士による援助は、保護者の方も受け入れやすいようです。援助を通してできるようになることが増えることで子どもが集団を楽しめるようになると、保護者の方にとっても子どもがよりかわいくなります。私たちの関わりは長くて6年ですが保護者の方はこれからずっとです。プラス面を伝えていくことで援助を求めることへの壁が少し低くなり、外部機関からの援助へとつながる架け橋が保育園でできると良いと思います。



◇ 巡回相談を受けて ◇



保育園のサポートの必要な子どもについては、会議で対応を検討したり、クールダウンの場を設定する等、園全体で支援していますが、限界を感じる状況もあります。巡回相談では、短時間の中で具体的な対応等多くの助言をいただき、実践を理論化し保育の中で活かすことができています。また、担当保育士は支援者に保育実践を共感してもらい、適切なアドバイスを受けることで保育への自信に繋がっています。今後も、より良い保育を行なうための大切な機会として、定期的な巡回を希望していきたいと思います。

藤沢市公立保育園　園長



保育園では気になる子、配慮の必要な子が増えています。保護者もその現状をなかなか受け入れられず、困ってしまうのは子どもたち自身です。保育士は、巡回相談の中で子どもたちの様子を見てもらいながら、悩みを相談したり適切なアドバイスをいただけることで、子どもたちに今必要な関わりをもつことができます。保護者も保育園で保育士と一緒にこどもをみてもらうことで安心して相談でき、子どもの現状を受け入れやすく、そのことが保育士と保護者の共通理解・共通認識につながり、子どもたちによい環境を作ることができると思います。

鎌倉市公立保育園　保育士（18 年目）

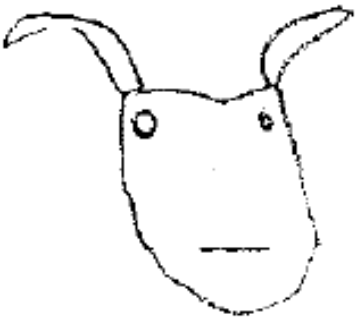


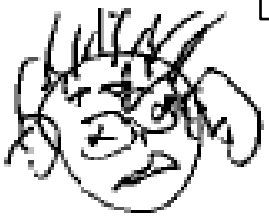
年長クラスに、特別配慮を要する園児２名が在籍しています。共に衝動的な動きが多く、園生活を安全に穏やかに過ごすための支援やクラス運営について、全職員でのケース会議を行いつつ、巡回相談の先生方には何度も相談にのっていただきました。参考になったこととして、１つ目に、気圧の変化や気候によって心身共に敏感に影響を受けやすい為、マッサージやスキンシップ遊びで心身をほぐしていくことが有効であること。２つ目に「ぐちゃぐちゃ」「どろどろ」など擬音語を意識的につかいながら、水や砂の感覚遊びをたくさんすることの重要性。３つ目に、自分たちが試行錯誤して行っている支援が、しっかりと園児の成長にフィットし、効果が表れている事を具体的に教えていただけたことが、その後の支援の道しるべとなりました。他にも様々な専門的アドバイスをいただいたり、手作りの玩具を紹介していただいたり、とても勉強になりました。今後も巡回相談の時間を有意義に活用していきたいと思います。

平塚市公立幼稚園教諭（11 年目）

巡回相談では、サポートの必要な子どもに対して保育園で配慮していることを伝え様子をみてもらい、具体的なアドバイスをいただきました。その際、提案となる助言だけでなく、現在の対応や取り組みを“肯定的に認める”言葉をいただいたことで、自信や意欲の向上へと繋がりました。定期的な巡回を受けることで、助言を活かし保育しての成果や次の課題がより明確になると思います。

藤沢市公立保育園　保育士（６年目）





気になる子どもの行動を違う視点からアドバイスをもらえてとても助かります。子どもへの対応だけではなく、保護者への働きかけも一緒に考えてくれました。

次に会った時に「どうでしたか？」「変わってきたね」など、優しく声をかけてくれることが自分の自信にもつながり、前向きに保育ができるようになりました。

鎌倉市　保育士（10 年目）

◇ 編集後記 ◇



私が平塚市こども発達支援室　（旧療育相談室）に保育園から異動したのは、3年前でした。平塚市は巡回相談として保育園、幼稚園を訪問していました。ある日訪問先の幼稚園で、1～2年目の先生が涙を流しながら子どもを追いかけていました。先生に、私は「追いかけないで、座っている子を褒めてあげてくださいね。」と伝えました。数日後「先日はありがとうございました。当たり前にしている子を褒めると走っていた子が座ってくれました」と言われました。その時に先生に言ってもらえた「ありがとう」が私は忘れられません。

どの園に行っても先生方が困っていることは「子どもの見立て」「どうしたらクラス保育に参加できるのか」「保護者支援」の3つです。巡回相談の中だけではすぐに相談、実践ができないと思われます。そんな時、園に1冊「こんな時の対応は･･･」があるといいなと思い、4市と発達障害支援センターで検討し、冊子ができあがりました。

この冊子に出てくる子ども達は、あくまでも一例にすぎませんが、是非とも多くの様々な子ども達への支援の考え方の参考にいただけたらと思います。

最後になりますが、より多くの園の先生方にこの冊子を有効に活用していただきたいと願っています。

平塚市こども発達支援室くれよん　室長　和久井葉子（文責）

編集スタッフ････

〔平塚市〕 和久井葉子、安藤淳子、比嘉真由美、池上恵美、近藤正代
中嶋朋子

〔鎌倉市〕 田中香織、久米恵子

〔藤沢市〕 加藤真弓

〔大和市〕 有川龍

〔神奈川県発達障害支援センター〕 金子譲

協　力･･････ 湘南福祉センター　猪股誠司
和泉短期大学　河合高鋭

挿　絵･･････ 小坂侑子
保育園･幼稚園の子ども達

表紙絵･････ ひよどり

裏表紙絵･･･ モロ

発　行･･････ 神奈川県発達障害支援センター



＊参考書籍

・発達障害のある子どもができることを伸ばす！・幼児編
・・・・・・・・・・・杉山登志郎・辻井正次/監修 （日東書院）
・育てにくい子にはわけがある・・・・・・・・・・・木村順/著（大月書店）
・気になる子も過ごしやすい園生活のヒント・・・・・あすなろ学園/執筆（学研教育出版）
・乳・幼児期の気づきから始まる 安心支援ガイド 発達障害 CHECK＆DO
・・・・・松本恵美子・薮内道子・高畑芳美/著、竹田契一/監修（明治図書）
・「気になる子」にどう対応すればいい？・・・・上原文/著（世界文化社）



「ちょっと気になるあの子へのアプローチ」
保育園･幼稚園の先生のための巡回相談　Q＆A

発行　平成 26年3月　　初版発行
令和　8 年4月　第2版発行

作成　平塚市、鎌倉市、藤沢市、大和市の巡回相談関係スタッフ
神奈川県発達障害支援センター　かながわA

発行元　神奈川県発達障害支援センター　かながわA
所在地　〒252-0813　藤沢市亀井野3119
電話　0466－84－0871